



2023年7月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年6月2日

上場会社名 ティーライフ株式会社
 コード番号 3172 URL <https://www.tealifeir.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西上 節也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部長 (氏名) 児島 正雄
 四半期報告書提出予定日 2023年6月2日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 0547-46-3459

(百万円未満切捨て)

1. 2023年7月期第3四半期の連結業績(2022年8月1日～2023年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年7月期第3四半期	9,889	6.7	509	12.5	518	12.6	349	18.2
2022年7月期第3四半期	9,267	11.4	582	16.2	593	16.9	427	24.9

(注) 包括利益 2023年7月期第3四半期 345百万円 (22.3%) 2022年7月期第3四半期 444百万円 (21.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年7月期第3四半期	82.20	
2022年7月期第3四半期	100.57	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年7月期第3四半期	8,587	5,924	69.0	1,391.71
2022年7月期	8,274	5,791	70.0	1,362.78

(参考) 自己資本 2023年7月期第3四半期 5,924百万円 2022年7月期 5,791百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年7月期		26.00		26.00	52.00
2023年7月期		26.00			
2023年7月期(予想)				26.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年7月期の連結業績予想(2022年8月1日～2023年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,718	0.1	856	5.8	857	7.1	557	1.7	131.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年7月期3Q	4,257,200 株	2022年7月期	4,250,000 株
期末自己株式数	2023年7月期3Q	159 株	2022年7月期	159 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年7月期3Q	4,253,982 株	2022年7月期3Q	4,249,841 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、資源価格の高騰や、為替の影響、ロシアによるウクライナ侵攻といった、地政学的リスクや世界的なインフレにより、先行き不透明な状況が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の対策が進み、経済活動の制限が緩和され、回復の動きが見られる状況にあります。

小売、卸売業界におきましては、光熱費の増加や原材料価格の上昇による商品の値上げ等により、生活費の負担は増しており、強い節約志向は継続しているものの、感染防止と社会経済活動の両立が進んだことで、緩やかに持ち直しの動きが見られる状況にあります。

通信販売業界におきましては、消費行動のデジタルシフトが進み、EC市場の拡大とともに競争激化が進行しました。また、行動制限の緩和に伴うリアル店舗消費やサービス・旅行等のコト消費の増大傾向が進む事により、伸び率は鈍化傾向にあります。

このような経済環境のなか、当社グループは安定的かつ継続的な成長と企業価値の向上を目指し、「進化するウェルネス&ライフサポート企業」を将来のビジョンとし、「Reborn! ver.2」をスローガンとした中期経営計画の達成に向け、各事業の拡大及び利益確保に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、卸売事業、プロパティ事業の売上伸長により9,889百万円（前年同四半期比6.7%増）となりました。損益面では、仕入価格や光熱費などの運営コストの上昇の影響から営業利益は509百万円（同12.5%減）、経常利益は518百万円（同12.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は349百万円（同18.2%減）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、売上高については、セグメント間取引の調整後の数値であり、セグメント利益又は損失については、セグメント間取引の調整前の数値であります。

(卸売事業)

卸売事業は、テレビショッピングにおける健康・美容関連商品の販売が好調となり、売上拡大に貢献しました。また、店舗向け卸販売においては、客足の戻りがみられ、堅調に推移しました。一方で円安の影響や運営コストの増加などから原価率が上昇しました。

この結果、売上高は5,330百万円（前年同四半期比13.2%増）、セグメント利益は416百万円（同13.0%減）となりました。

(小売事業)

小売事業では、全般的な物価上昇に伴う調達コスト増が進むなか、販管費の低減に注力しました。EC領域では自社アプリ利用者拡大やLINE・SNSの活用を中心に販売促進を拡充し、デジタルシフトに注力するとともに、顧客開拓のクリエイティブの見直しや広告宣伝費の配分適正化に努めました。売上面では特にECモールでのコロナ特需の反動などの前述要因により減収になったものの、仕入価格や光熱費などの運営コストの見直しを行い、収益性の改善に努めました。

この結果、売上高は3,870百万円（前年同四半期比6.5%減）、セグメント損失は32百万円（前年同四半期は89百万円のセグメント損失）となりました。

(プロパティ事業)

プロパティ事業では、袋井センター及び掛川センターの安定稼働、名古屋センターの稼働率改善や3PL請負先の新規獲得等が売上拡大に貢献しました。一方で光熱費や受託に係る量の増大に伴う運用コストが増加しました。

この結果、売上高は688百万円（前年同四半期比62.7%増）、セグメント利益は145百万円（同21.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、8,587百万円(前連結会計年度末比313百万円増)となりました。

流動資産の増加(同220百万円増)は、主に棚卸資産が221百万円増加したことによるものであります。

固定資産の増加(同93百万円増)は、主に投資有価証券が35百万円減少したものの、のれんが124百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、2,663百万円(前連結会計年度末比180百万円増)となりました。

流動負債の増加(同116百万円増)は、主に未払法人税等が103百万円減少したものの、買掛金が227百万円増加したことによるものであります。

固定負債の増加(同64百万円増)は、主にその他が85百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、5,924百万円(前連結会計年度末比132百万円増)となり、この結果、自己資本比率は69.0%となりました。

純資産の増加は、主に利益剰余金が128百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年7月期の業績予想につきましては、2022年9月2日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,323	2,266
受取手形及び売掛金	1,159	1,209
有価証券	—	25
棚卸資産	637	859
その他	171	154
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	4,282	4,502
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	696	679
土地	2,429	2,429
その他(純額)	133	131
有形固定資産合計	3,260	3,240
無形固定資産		
のれん	60	184
その他	67	71
無形固定資産合計	128	256
投資その他の資産		
投資有価証券	197	162
その他	410	430
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	603	588
固定資産合計	3,991	4,085
資産合計	8,274	8,587

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	524	751
1年内返済予定の長期借入金	196	115
未払法人税等	159	55
賞与引当金	51	97
役員賞与引当金	2	4
その他	488	514
流動負債合計	1,423	1,539
固定負債		
長期借入金	619	594
退職給付に係る負債	79	82
資産除去債務	72	72
その他	288	373
固定負債合計	1,059	1,123
負債合計	2,482	2,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	356	361
資本剰余金	326	331
利益剰余金	5,083	5,212
自己株式	△0	△0
株主資本合計	5,766	5,904
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	18
為替換算調整勘定	5	1
その他の包括利益累計額合計	24	20
純資産合計	5,791	5,924
負債純資産合計	8,274	8,587

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
売上高	9,267	9,889
売上原価	5,556	6,467
売上総利益	3,711	3,422
販売費及び一般管理費	3,128	2,912
営業利益	582	509
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	0
為替差益	8	5
その他	3	5
営業外収益合計	13	13
営業外費用		
支払利息	1	1
リース解約損	—	1
その他	1	0
営業外費用合計	2	3
経常利益	593	518
特別利益		
補助金収入	21	19
特別利益合計	21	19
特別損失		
固定資産除却損	4	—
特別損失合計	4	—
税金等調整前四半期純利益	610	538
法人税等	182	188
四半期純利益	427	349
親会社株主に帰属する四半期純利益	427	349

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
四半期純利益	427	349
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△0
為替換算調整勘定	15	△4
その他の包括利益合計	16	△4
四半期包括利益	444	345
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	444	345
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間において、株式会社オフィスサブライズの全株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	卸売事業	小売事業	プロパティ 事業			
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	4,707	4,137	86	8,931	—	8,931
その他の収益(注)3	—	—	336	336	—	336
外部顧客への売上高	4,707	4,137	423	9,267	—	9,267
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5	7	84	97	△97	—
計	4,712	4,144	507	9,365	△97	9,267
セグメント利益又は損失(△)	478	△89	184	574	8	582

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額8百万円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	卸売事業	小売事業	プロパティ 事業			
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	5,330	3,870	117	9,318	—	9,318
その他の収益(注)3	—	—	570	570	—	570
外部顧客への売上高	5,330	3,870	688	9,889	—	9,889
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	8	203	214	△214	—
計	5,332	3,878	892	10,103	△214	9,889
セグメント利益又は損失(△)	416	△32	145	528	△19	509

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△19百万円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。